

金津勢村正八郎右衛門と云々越後守上言則義光公へ就上
右の太刀相州正泉三氏寺の名取より加勢正記の爲伊達政宗と
云々越後守金津勢者より道下川口小穴越後守里見氏部川口
様下行分岐の所に備を立る先河方よりと焼拂火舟の大船
と云々松村の山を渡りて島岡甚五郎と云々討取是二番首より
二番首川口村次右馬助取焼拂村々川口村赤坂夜吾松
村より金津勢敗軍の首大船横田式部河原部守松の山より
川口の方へ山道を渉く三千人程にて退き申上

金津勢の退散之事

一 かく長谷堂上の山に合戦山形方勝利より成りぬ
直江山城守戸上山の方に退陣しあつて同九月廿日義
光公出馬より敵陣五十丁程隔て陣取ぬ松村より雲原
北合戦家康公市利運より石田治部補より関西の諸大名
悉く敗軍の由早馬到成に義光公大業を思召しこの旨諸
軍へ觸るゝ敵を定て今略すうちに引取べきの旨討にを
願ふと諒解の時敵もへ何れも地の具堅き村居より松村
と云々金津勢方の陣取より戸上山の方まで明松の所へ引くや
上言に今宵の夜に定て明朝引取へしと宣ふ所は敵既